

一言コラム

ダイバーシティ

昨今、ダイバーシティ（多様性）という言葉をよく耳にするようになった。よく使われるということは「多様性」がいろいろな意味に解釈されるということだ。言葉が独り歩きしていることも懸念される。

金子みすゞの「みんな違ってみんないい」という詩がある。個性を大切にしたい素晴らしい詩だと思う。ただ以前、次の文章に強く共感を覚えたことを思い出した。

『子どもの多くは「みんなと同じがいい」と思っています。—(中略)— みんなと同じようになるのが大前提で、多様性はその上に乗っかっているもの。最近はその勘違いをして、「多様性」という言葉を簡単に使いすぎているように思います。』

(子どもが心配 著：養老孟司より)

人が言葉を理解するとき、自分というフィルターを通してその言葉を理解する。「わかる」というのはそういうものということ、伝えた側と受け取った側に差異があるものだととらえていけば避けられる衝突もあるのではないだろうか。

本来、人は一人ひとり異なるものである。社会の中で生きていくために相手と協調して生きていく。だとすれば大切なのは目の前の人と「繋がる」ことではないか。そしてお互いを認めることができたなら多様性なんて言葉は必要なくなる。

ダイバーシティという言葉が使われなくなるくらい、一人一人が繋がりを大切に、お互いを認め合える世の中になればいいと思うのは、逆に傲慢であろうか。

一言コラムも今回が最後となります。

毎月読んでくださった皆さま、ありがとうございました。